

事業別戦略 — 特殊電池およびその他事業

ジーエス・ユアサ テクノロジー 社長メッセージ

当社は航空機用や潜水艦用で世界初のリチウムイオン電池の採用実績を持ち、特殊分野での高い知名度を誇ります。衛星に搭載されている電池の容量では、世界1位の実績を持っています。このアドバンテージを活かした新しい社会インフラへの採用を勝ち取っていくことができる技術開発力を強みとしています。

防衛用途では、我が国の防衛費の増加に伴い、多くの熱電池の開発や量産を受注し、増産計画を進めています。宇宙用途では、国内のH3ロケットに熱電池やリチウムイオン電池が採用され、商用化に向けた受注量の増加が見込まれます。さらに、米国のアルテミス(月面探査)計画にも参画し、国際宇宙ステーションのような居住環境に使用される電池の開発も行い、一部納入を完了しました。航空機用途では、OEMで納入したリチウムイオン電池の取り換えが順調に進捗し、利益の柱となっています。

第六次中期経営計画期間中は、潜水艦用リチウムイオン電池の需要が堅調に推移するほか、防衛用途の各種電池の受注が年々増加しており、なかでも熱電池は現行の数倍の物量に増える見通しであり、増産対応のための一部工程の自動化を進めています。航空機用リチウムイオン電池は、初回搭載した電池の取り換え需要が拡大する時期であり、物量の増加を見込んでいます。2025年度も前年度相当の業績を見込んでおり、第七次中期経営計画では第六次中期経営計画の実績を超える業績を達成することを期待しています。



(株)GSユアサ 執行役員
(株)ジーエス・ユアサ テクノロジー 代表取締役社長

並河 芳昭

第六次中期経営計画における事業方針

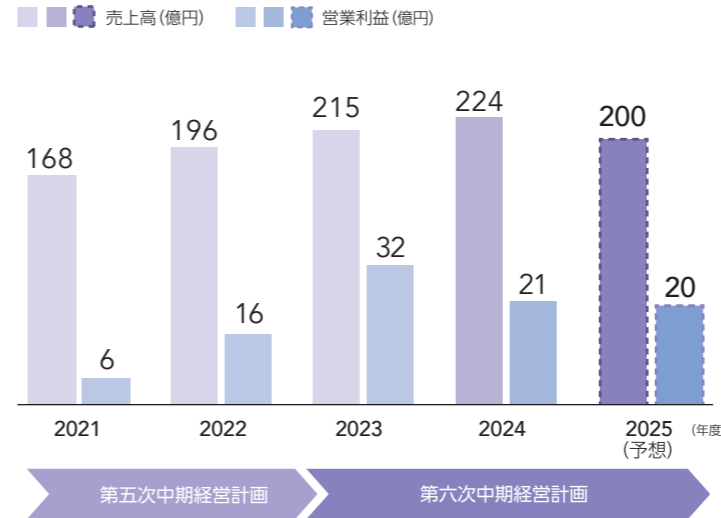
最高水準の性能と品質の電池で新しい社会インフラ構築に貢献する

第六次中期経営計画における戦略および重要課題

特殊電池事業

取り組み	進捗
■ 防衛産業の基盤強化取り組みに伴う収益性の改善	■ 防衛省の契約制度の変更やコスト上昇に伴う売価アップの交渉により、近年利益率が改善
■ 次世代潜水艦用リチウムイオン電池の開発	■ 防衛省指導のもと、次世代電池の開発は順調に進捗
■ 航空機用リチウムイオン電池の増加に向けた対応	■ 民間航空機だけでなく、防衛用途や電動化用途への取り組みも実施
■ 衛星用リチウムイオン電池の拡販	■ 米国の子会社と共同で小型衛星用セルの開発を進め、米国および国内の顧客に対して提案活動を実施

業績推移



SWOT

<p>強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内唯一の特殊電池メーカー ■ 新しい社会インフラへの採用を勝ち取っている高い技術力と信頼性 	<p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 多品種少量生産であり、全自動化に不適合 ■ 設備老朽化
<p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 防衛生産基盤強化法の成立・施行 ■ 宇宙など新規市場の拡大 	<p>脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開発難易度アップによるコスト高 ■ 電池起因のインシデントの発生 ■ 社会的責任の増加 ■ 地政学リスクによるリチウムイオン電池部材の安定調達への懸念

主な搭載事例

<p>ISS (国際宇宙ステーション) ©JAXA/NASA</p>	<p>H3ロケット ©JAXA</p>	<p>準天頂衛星「みちびき6号機」 出典:内閣府 みちびきウェブサイト</p>	<p>X線分光撮像衛星XRISM ©JAXA</p>
<p>温室効果ガス・水循環観測技術衛星GOSAT-GW ©JAXA</p>	<p>Boeing 787</p>	<p>しんかい6500 ©JAMSTEC</p>	<p>そうりゅう型潜水艦 (提供:海上自衛隊)</p>